

第 31 回(令和 2 年度 第 2 回)黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 令和 2 年 8 月 31 日 (月) 14 : 00 ~
- 場 所 黒部市民会館 101 会議室
- 出席者 協議会委員 19 名

出席者名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	大野 久芳	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	中田 邦彦	本人出席	
		黒部市タクシー協会会長	神谷 尚機	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式会社総務企画部長	籠浦 克行	本人出席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長	濱瀬 浩晃	所長代理 高嶋 茂晴	
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	高尾 且英	本人出席	
		黒部市自治振興会連絡協議会	谷島 傳俊	本人出席	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市民生委員児童委員協議会長	田村 豊嗣	本人出席	
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会長	村上 勝悦	本人出席	
		くろべ女性団体連絡協議会長	新村 恵子	欠席	
		公募委員	中谷 靖子	欠席	
	政策支援 アドバイザー	東京大学大学院工学系研究科教授	原田 昇	本人出席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	佐々木凜太郎	本人出席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	織田 幸治	欠席	
北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官		鴻島 純	本人出席		
富山県観光・交通・地域振興局 総合交通政策室次長		清水 圭	本人出席		
地域交通・新幹線政策課長					
黒部商工会議所会頭		川端 康夫	本人出席	座長	
一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局代表理事		川端 康夫	事務局長 坂井 英次		
Y K K 株式会社 副社長 黒部事業所長		浅野 慎一	本人出席		
富山県交通運輸産業労働組合協議会議長	石橋 剛	本人出席			
宇奈月商工振興会	羽柴 進一	本人出席			

- 事務局：黒部市都市建設部都市計画課：島津部長、畠山理事、廣木課長、興水主幹、櫻田班長補佐、大坪主任、林主事
(株)新日本コンサルタント：大門、植原、茂木

会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ（会長 大野黒部市長）
- 3 報告事項
 - (1) 経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1
 - (2) 令和元年度公共交通利用者数（鉄道関係の更新）・・・・・・資料 2
 - (3) 路線バス事業の収支状況について・・・・・・・・・・資料 3
 - (4) 令和 2 年度路線バス動態調査の考え方について・・・・・・資料 4
 - (5) 新型コロナウイルス感染症対策への支援について・・・・・・資料 5
- 4 協議事項
 - (1) 第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画実施事業のスケジュールについて・・資料 6
 - (2) 大規模交流施設開業に向けた路線バス乗り入れの考え方について・・・・資料 7
- 5 その他
- 6 閉 会

開会

- 定刻通り開会し、委員の変更について、事務局が紹介を行った。
- 進行：廣木課長

あいさつ（大野市長）

- 会長よりあいさつを行った。

本日ここに第 31 回黒部市公共交通戦略推進協議会のご案内をさせていただいたところ、皆さんにはご参加いただき、心から感謝を申し上げます。特にコロナ渦が続いている中で県外からお越しいただいた委員の方々には深く感謝を申し上げます。また、日頃より本市の公共交通の整備と運営に格段のご理解・ご協力をしていただいていることを改めて感謝を申し上げます。

今年の春先から新型コロナウイルスの感染拡大により、4 月には政府の緊急事態宣言が発出されたことにより、ステイホームや移動自粛が打ち出され、現在に至るまで我々の経済活動に甚大な影響を及ぼしている。さらに、感染拡大防止のため、密閉・密集・密接の「三密」の回避と、屋内での換気の徹底やソーシャルディスタンスの確立、そしてテレワークの実施や時差出勤など、今までの生活スタイルそのものを変えざるを得ない状況となっている。

今の状況は緊急事態宣言発出時と比較すると、多少は落ち着いているように見えるが、ここ最近では感染者が全国的にも、富山県においても急増していることを考慮すると予断を許さない状況となっている。このような状況においても市民生活を支えるために会社の収益が悪化することを覚悟の上で、鉄道及び路線バスなどの運行を維持していただいている公共交通の運行事業者に対して敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。

本日はそのような状況ではあるが、報告事項が 5 点、協議事項が 2 点ある。報告事項では、「経過報告」「令和元年度公共交通利用者数」「令和 2 年度路線バス動態調査の考え方について」「新型コロナウイルス感染症対策への支援について」を報告させていただく。協議事項では、「第 2 次黒部地域公共交通網形成計画実施事業のスケジュールについて」「大規模交流施設開業に向けた路線バス乗り入れの考え方について」を協議させていただく。

どうか、有意義な会議となるよう、皆さんのご意見をお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

報告事項

●事務局より、資料 1～5 に基づき報告を行った。

○浅野委員

路線バスごとの収支状況の資料について、私の方で一人当たりの単価を計算したところ、平成 29 年度（全体）で不自然な数値になるため、各路線の数値に間違いがないか調べていただきたい。

また、各路線の収支回収率を算出すると、殆どの路線が 10～20%程度である。この数値で収支状況の良し悪しを決めつけるわけではないが、収支状況の改善を図る指標として、一人当たりの収支だけでなく、各路線で収支回収率の目標を定めることを検討していただきたい。

○事務局

黒部市ではバス路線ごとに歴史的な経緯や本市の地域公共交通体系における位置づけや利用形態が異なるため、収支回収率の改善が難しい路線もある。また先日の作業部会では各路線の運行収入と運行経費を明示したうえで協議を行ったが、収支回収率については議論されていない。しかし経営の観点からの重要性を考え、今後は路線ごとの収支回収率についても協議を行うことを検討する。また平成 29 年度の単価については、池尻線のデータを作業部会の後に加えたが、バス路線全体の数値は昨年度の計画策定時にお示しした数値を使用しているため、不自然な数値になったかと思われる。このような点を含め収支状況については定期的に報告したいと考えており、次回までに精査し修正を行う。

○浅野委員

路線によっては利用者数があまり変化していないにも関わらず、運行経費が大きく増加している年がいくつか見られる。これについては、その原因が分かるようにしていただきたい。

○事務局

経費が増加した部分については運行事業者と協議を行いながら、このような場に明示できる形を検討した上で報告する。

○佐々木委員

今回の資料 3 のように、路線の収支状況などをまとめられている点については、公共交通

会議の中ではかなりデータを出せていると考えており、このようなデータを活用し改善を目指すべきである。

そのうえで何を指すべきかについては、計画で議論されたものをベースにいただきたい。収支状況については、網形成計画の事業 18 のバス路線の見直しのための素材として提供いただいたのだと思うが、一方で網形成計画の中では市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数を 20 万人とすることが目標となっており、この目標を念頭に置いたうえで議論をしていただきたい。逆に、検証していく中で収支や回収率で見るべきということになれば、計画に立ち返り再度議論する必要がある。

また、資料 3 の収支状況の数値を細かく見ると、利用者数が大きく変化していないにも関わらず収支が大きく減少している部分があり、こういった事例の原因についても見ていく必要がある。例えば、黒部市の公共交通では免許返納などの制度により無料で利用できる人も一定数存在するのであれば、利用者数の増加が収支の増加に結び付かない場合もある。このような原因を明らかにしたうえで議論をすべきである。

○原田委員

資料 5 の新型コロナウイルス感染症対策への支援（1）はかなり大きな補助かと思われるが、周りの県や市町村はどういった支援を行っているのか。

○佐々木委員

資料 5（1）について、このような支援を実施していることについてはありがたいと思う。北陸信越運輸局管轄内の自治体の支援のパターンは様々である。資料 5 の（1）のような形で支援を行っている自治体は富山県内で多く感じる。石川県では物資への補助が中心になっており、新潟県や長野県では定額での支給が多い。富山県から支援に関するコメントはあるか。

○清水委員

黒部市には、公共交通感染防止運行協力支援事業をいち早く取り入れたことをありがたいと思う。

○原田委員

資料 5 の（1）については、公共交通の必要性を考えた支援であり、積極性が感じられる。また、先ほどの収支状況や網計画全体の協議については、状況に応じて見直しを行った上で引き続き議論をしていただきたいと思う。

○川端座長

今後も収支状況などについて、逐次見直しや報告を行う。また作業部会においても指摘をいただいた部分については細かく掘り下げていく。

協議事項**(1) 第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画実施事業のスケジュールについて**

- 事務局より、資料 6 に基づき第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画実施事業のスケジュールに関する説明を行った。

○籠浦委員

事業番号 2 「あいの風とやま鉄道と市内交通機関との連携」の「生地駅、黒部駅周辺のまちづくりと連携した利用促進策の検討」は大規模な計画となり、ハードとソフトの 2 つの面からアプローチをする必要がある。ハード面については、事業 25 「駅施設の修繕・改善とパーク&ライド駐車場の整備」に関連するものと考えられるが、ただ単に施設の整備を行うことを目的とするのではなく、その地区の将来像を見据えた中で検討する必要があると考えている。また施設の整備には多額の費用が掛かり後戻りできないため、慎重な検討が必要である。

ソフト面については、ダイヤの改正やサービスの向上などが考えられるが、我々の運行ダイヤについては、利用状況を十分に踏まえつつ、新幹線との乗り継ぎの時間を考慮したものになっているため大きな変更は難しい。その中で利用者にとってより便利になるような工夫を行っている。またサービス向上については、運転免許返納者への割引や迅速な運行状況の提供などの様々な取り組みを実施している。しかし、現在は新型コロナウイルスの流行により、今まで積み重ねてきた市民の公共交通を積極的に利用するという気運が削がれないか心配である。我々の方では感染拡大防止に向けて、車両の換気や施設の消毒などを行っている。併せて、利用促進に向けた PR 活動も行っていることから、今後とも協力していただきたく思う。

○川端座長

実施事業のスケジュールについては、各事業を進めていく中で柔軟に対応することを考えており、必要に応じて修正も行うつもりである。

(2) 大規模交流施設開業に向けた路線バス乗り入れの考え方について

- 事務局より、資料 7 に基づき大規模交流施設開業に向けた路線バス乗り入れの考え方に関する説明を行った。

○川端座長

路線バスの乗り入れについては、新たに路線を設定するのではなく近くを通過する既存の路線を変更させるとのことである。また、(仮称)くろべ市民交流センターについては幅員が狭いため乗り入れは小型車両に限られるが、その点についても意見はないか。

○神谷委員

(仮称)くろべ市民交流センターの駐車場を広く確保できるのであれば、マイクロバスで十分だと考えられる。

○原田委員

黒部市は魅力的な建物に囲まれた空間が形成されており、建物からまちなかへ魅力を伝えられるような整備ができれば良いと考えている。(仮称)くろべ市民交流センターについても、無理に構内に乗り入れさせるのではなく、最寄りのバス停から(仮称)くろべ市民交流センターまでの道路を魅力や利便性が高まるような整備を実施する方向で考えていただきたい。

○川端座長

他に意見がないのであれば、概ね原案の通りに進めさせていただく。

その他

○石橋委員

黒部市内の主要な駅では、深夜帯の移動手段としてタクシーが待機しており、これまでは深夜帯まで営業している飲食店があったため利用者が確保できていたが、現在では深夜帯の利用者はあまり見られない。このように、利用者があまり望めない状況でも深夜帯の移動手段としてタクシーを駅に待機させることは、事業者にとって人件費の浪費になってしまう。そういった点から、タクシーの利用促進や補助などの支援を今後の網計画の中で検討していただきたいと思う。

○事務局

先ほどの意見に対して我々から出来ること、出来ないことがあるが、今後の網計画の参考にさせていただく。

○中田委員

今年の3月から新型コロナウイルスの影響で輸送人員は減少しており、4月・5月は6、7割減、7月の収入は前年度の半分程度となっている。特に観光バスと高速バスは9割減となっている。黒部市内のバスについても令和2年度は収入や利用者数が相当悪化し、例年と比べ異常な数値になると思われる。そのため令和2年度の数値については、新型コロナウイルスの影響を考慮し取り扱う必要がある。

(仮称)くろべ市民交流センターへの路線バス乗り入れについては、施設までの距離や現在の運行ダイヤの兼ね合いから、施設まで路線を伸ばすのは非効率だと思われる。そういった点を踏まえた上での協議をしていただきたい。

○事務局

路線バス乗り入れの件については、今後も引き続き協議を行うつもりである。

閉会（谷島委員）

●副会長よりあいさつを行った。

本日は、長時間にわたりご協議いただきありがたく思う。また、川端座長には、円滑な議事運営をいただき、感謝申し上げます。

本協議会では第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画に関して、実施事業のスケジュールや道の駅 KOKO くらべ、(仮称) くらべ市民交流センターなどの大規模な交流施設開業に向けた路線バスの乗り入れなどについて、考え方の支援をしていただいた。また、計画が進むにつれて具体的な協議をしていただきたく思うが、冒頭のあいさつにもあった通り、現在は新型コロナウイルスの感染が再度拡大している状況となっており、いつ収束するのか見通しも立っていない。そのなかで運行事業者の皆さんについては、公共交通利用者の感染対策も大事であるが、まずは運転手の感染防止に万全の喫していただくようお願い申し上げます。

本日は、誠にありがたく思う。

以 上